

オープン市場短信 (2012年11月)

2012.11.09

◆ 10月のCP市場動向

10月のCP月末残高は、14兆6427億円と前月比3299億円の増加に止まった。中間期末明け、多くの一般事法が復活発行に動いたが、ABC Pの大幅減少やその他金融及び金融機関の減少が影響し、10月末残としては2005年以降最も低い水準となった。業種別では、鉄鋼・電気機器・輸送機器等での大幅増加が目立った。

発行レートは、電気機器以外の銘柄については、足元の資金余剰もあって運用側のニーズが強く、0.100%台前半から0.11%近辺と引き続き低位安定推移であった。電機機器については、積極的に発行を行った銘柄では徐々に強含み地合いとなった。運用者側の慎重姿勢は変わらないが、個別に業績を注視して購入する動きとなっていた。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄 (a-1+格) 0.106~0.108% 一般事業法人 (a-1格) 0.111~0.244%
その他金融銘柄 (a-1格) 0.1095%~0.180%。

【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	10月末残高	9月末残高	増減
一般事法	48,569	40,917	7,652
その他金融	54,675	55,302	▲ 627
金融機関	24,746	25,137	▲ 391
(政府系金融	470	540	▲ 70)
(銀行等	10,277	10,802	▲ 525)
(証券	13,999	13,795	204)
ABCP	18,437	21,772	▲ 3,335
計	146,427	143,128	3,299

(注:買入消却分含む)

【格付け別の発行レート】

10月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.1029% ~ 0.1260%	0.1030% ~ 0.1080%	0.1060% ~ 0.1080%
a-1 (一般事法)	0.1060% ~ 0.1430%	0.1070% ~ 0.3500%	0.1100% ~ 0.2440%
a-1+(リース銘柄)	0.1030% ~ 0.1045%	0.1030% ~ 0.1120%	0.1070% ~ —
a-1 (リース銘柄)	0.1100% ~ 0.1900%	0.1090% ~ 0.2200%	0.1095% ~ 0.1800%
a-2	0.130% ~ ケ 0.25	0.112% ~ ケ 0.35	0.111% ~ ケ 0.45

《CPオペ》

CP等買入オペは、4日・17日・24日と3回の入札が行われ、オファー額は各回3千億円にて実施された。期末要因の剥落と発行レートの低下が影響し、オペレートは平均・足切りレート共に低下する結果となった。

月末の買入オペ残高は、1兆5417億円（前月比2110億円増）であった。

10月31日、日銀は12月のCP・社債買入等のオペレーション日程を発表。その際、11月からのオファー金額について、3000億円から4000億円に変更とした。

日銀(資産買入等の基金)によるCP買い入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
10月4日	10月10日	3,000	4,575	2,990	0.120%	0.125%	60.0%
10月17日	10月22日	3,000	5,270	1,657	0.115%	0.126%	44.1%
10月24日	10月29日	3,000	5,420	2,860	0.110%	0.113%	47.1%

《ABCP》

ABCPは前月比3335億円の大幅減少、1兆8437億円であった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、発行登録企業数は497社（新規：T&Dリース、抹消：住友金属工業）、新規発行は新日鐵住金1社で、通算の発行企業数は521社となった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、10月中も落ち着いて推移(0.10%近辺~0.105%)していた。

◆ 11月のCP市場動向

11月中のCP償還額は、10月末時点で約2兆8700億円と、前年同月の償還額（約3兆140億円）を下回っている（除く、ダイレクトCP・金融機関発行CP・ABC）。

中旬以降、賞与手当に対応の発行増が予想されることから、月末残高では3ヶ月ぶりに15兆円台に復活する動きが予想される。しかし、7月以降月末発行残高が前年同期を下回る等、企業のCP発行による資金調達ニーズの落ち込みが続いているため、大幅増加とはならない見通し。

発行レートは、引き続き電気機器や発行量・発行頻度の高い銘柄は、やや強含みを予想。それ以外の一般事法については、年内物0.100%台前半～0.11%前後。年越え物についても、0.105%～0.115%前後の落ち着いた動きを予想する。3月本決算越えの発行については、期内物に比べ若干プレミアムがつく程度であろう。その他金融やリース銘柄（a-1格銘柄）の3M物では0.11%近辺～0.14%近辺を予想する。

《CPオペ》

今月は、6日（実施済）・19・26日と計3回の入札が実施される予定。

6日実施済分のオペについては、今回からオファー金額が増額になったことや、発行レートが低下していることもあって、前回オペから大幅低下することを予想（足切りレート、0.106%）する向きも多かった。しかし、電気機器等売却ニーズの強い銘柄を持ち込むディーラーの応札が多かったこともあって、足切りレートは0.108%となった。次回以降のオペについても、ディーラーの電気機器等の売却ニーズに影響を受けることとなろうが、足元調達コストとの見合いから勘案すると、足切りレートは更に低下すると思われる。

月末オペ残高は、1兆8000億円前後を予想。

《CP現先市場》

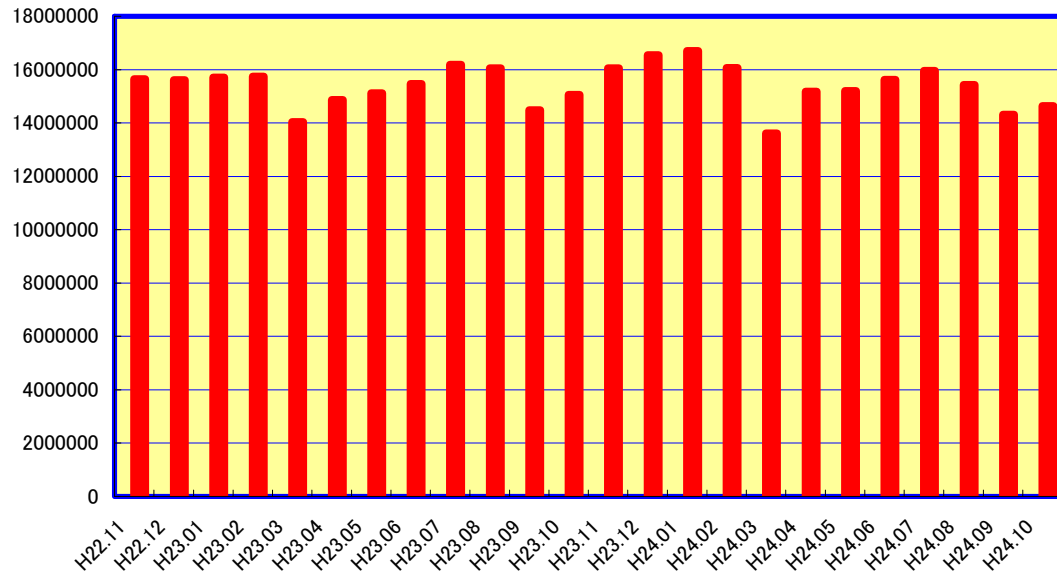
日銀の潤沢な資金供給姿勢は、今月も変わらないと思われる。インターバンクレートは0.08%～0.109%での推移。レポレートは、0.100～0.103%近辺の出合いであろう。CP現先レートについても、運用ニーズが強いことや玉不足もあって、0.100%～0.103%での出合いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高（22年11月～24年10月）

発行登録企業：497社（発行実績あり521社）

（過去2年間の残高を表示）



10月末発行残高ベスト20

10月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	10月末残高	9月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	732,500	761,800
2	三菱UFJリース	702,900	709,300
3	東京センチュリーリース	613,900	606,300
4	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	600,460	683,590
5	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
6	三菱UFJモルガンスタンレー証券	439,500	422,100
7	パナソニック	410,000	300,000
8	新日鐵住金	381,000	0
9	東 芝	371,000	105,000
10	JXホールディングス	357,000	372,000
11	興銀リース	336,100	335,000
12	JA三井リース	333,000	330,000
13	アルカディア・ファンディング	322,070	333,020
14	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	308,110	380,270
15	芙蓉総合リース	301,200	326,200
16	大和証券	246,680	262,880
17	みずほ証券	233,300	249,300
18	野村證券	228,000	217,000
19	ジェイエフイーホールディングス	220,000	0
20	オリックス	217,100	206,600

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会